



年中の発表会！ ご参観、 ありがとうございました！

11月28日(土)に年中の劇ごっこの発表会を開催いたしました。コロナ禍の中、全国的に新型コロナウイルス感染者数が増加しており、当日の発表会が開催できるかどうか心配しておりましたが、プログラムを一部変更しながらも実施できたことを大変嬉しく思います。また、保護者の皆様には、早朝より御来園いただき、子ども達への温かな拍手を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

年中の劇ごっこは、どのクラスも動物が登場してくる話という共通性がありました。当日を迎えるまでに、耳や尻尾を体につけ、動物になりきって遊んでいる姿を見かける日が多くありました。

さて、年中の劇ごっこを通して、次の3点から成長した姿を見ることができました。

- ① 友だちとかかわりを深め、工夫したり協力したりして一緒に活動する楽しさを味わうことができていたこと。
- ② 劇中の言葉の響きやリズムに触れ、これらを使う楽しさを味わうことができていたこと。
- ③ 諦めずにやり遂げたことへの達成感や自分の力で言うことができた充実感を味わうことができたこと。

保護者の皆様方には、どのように感じられましたか？

<キリン組> 【てぶくろの一場面より】



ウクライナ民話から生まれた絵本『てぶくろ』は、日本でも1965年に内田莉莎子さんの翻訳で発売され、今でも変わらず子どもたちに読み継がれている傑作だそうです。

響流の森に出かけ、森で発見した片方の手袋との出会いから絵本の世界に入り込んでいったようです。劇の中では、「手袋に住んでいるのだ〜あ

〜れ」「私も入〜れ〜て」「い〜い〜よ」のやりとりが耳に残っています。とても素晴らしかった出来栄でした。

<リス組> 【そらいろのたねの一場面より】



累計100万部を超えるロングセラー絵本である『ぐりとぐら』を作った中川李枝子さんの作品で、『ぐりとぐら』のわずか4ヶ月後に刊行されたそうです。

靴箱近くに「そらいろのたね」が植えられた植木鉢が置いてありました。中から空色の家が育っていました。次の日は、家がさらに大きくなり…知らず知らずのうちに絵本の世界に入り込んでいきました。劇中の「どうぞはいいですよ」「おじゃましま〜す」の言葉のやりとりが楽しかったです。とても素敵な出来栄でした。

<ウサギ組> 【おむすびころりんの一場面】



日本古来のねずみ浄土話を、リズムカルな語り口とおおらかでユーモアたっぷりの絵で描かれています。「おむすびころりん、すっとなん」は、私には懐かしいフレーズです。

百年の森に出かけ、紙で作ったお握りを実際に転がしたところから絵本の世界に入り込んでいったそうです。「おむすびころりん、すっとなん」「♪ぺったん ぺったん ねずみのもちつき」などリズムのある表現のやりとりが楽しかったです。とても見事な出来栄でした。

<次号は終園式に発行予定です>